

親から子へと受け継がれてきた手仕事

ひのきざい く 梶細工 × かつき ひさよ 香月 久代 [石川県白山市]

約400年前、旧尾口村深瀬(石川県白山市)を訪れた旅の僧が檜笠の製法を伝授したのが檜細工の始まりと言われています。日常生活で広く使われていた檜笠は、江戸時代中期には村の重要な商品となり、昭和に入ると村を挙げて取り組む一大産業へと発展しました。原料となる檜の板を細く薄く加工した「ヒンナ」を編む作業は、村の各家で親から子、子から孫へと受け継がれてきたそうです。しかし、1975(昭和50)年の手取川ダム建設により深瀬地区は水没。その後住民は、鶴来町などの移住先で生産グループを作り、共同で生産販売を行ってきました。現在、技術者の高齢化や後継者の減少が進むなか、海外でも高い評価を受けた技術を後世に残すため、香月久代さんが中心となって檜細工の輪を広げています。



●帽子、檜笠

晴れていると木が収縮して隙間が出来るため通気性が良く、雨が降ると水を含んで膨らみ、水を通さなくなる。洋風の帽子は、最盛期にはアメリカへ輸出していたこともあったそうだが、現在は技術者の減少で作れる人は限られている。



●カゴ

伝統的な檜笠以外にもカゴをはじめ、さまざまな生活用品を作っていた。母から受け継いだ技術を守り、一つずつ精巧に編まれた手仕事が美しい。

【深瀬檜細工工房】

石川県白山市深瀬新町12
TEL 076-259-1394



●ペットボトルケース

現代の生活に合わせて使いやすい商品開発にも取り組む。



●ピアス、イヤリング

色を付けたヒンナで作ったアクセサリーなどの小物も人気。

香月 久代 (深瀬檜細工工房 代表)

1950年 旧尾口村深瀬生まれ。石川県の指定伝統工芸品である檜細工の伝統工芸士。幼いころから実家の檜笠作りを手伝う。1997年に檜笠生産グループが設立されたことから、本格的に製作を始める。現在は白山市鶴来地区の「横町うらら館」で出張体験教室を開催し、技の伝承に取り組む。檜細工の魅力に惹かれてオーストラリアから移住してきたという女性にも技を伝えるなかで、若い感性で作られる作品に驚くとともに、檜細工の可能性も感じている。

【横町うらら館】石川県白山市鶴来新町タ1 ※作家は水・土曜在館、日曜は予約のみ受付
入館無料。ただし、檜細工のコースター作り体験は有料。